



旭日双光章を保坂 益男氏

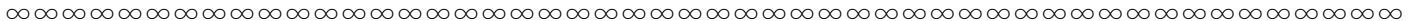
瑞宝単光章に山本 和与利氏と山口 孝人氏

## 協会関係者 3 名が受章の榮譽に

令和 2 年度秋の勲章受章者が 11 月 3 日に発表されました。当協会関係では、旭日双光章を保坂益男氏(日本機械土工協会)が、瑞宝単光章を山本和与利氏(日本ロックエンジニアリング株式会社)と山口孝人氏(玉石重機株式会社)が受章されました。

今年度は春に続き国主催の伝達式および天皇陛下への拝謁は新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として行われなことから、当協会においては、山梨会長から勲章の伝達が行われますので、後日その様子についてはご報告させていただく予定にしています。

受章者の皆様の榮譽を祝して、当協会の顧問を務めて頂いております戸塚進也様より機関誌にメッセージを頂戴しましたのでご紹介いたします。



## 保坂益男常務理事の叙勲を祝して



(一社)日本機械土工協会

顧 問 戸 塚 進 也

コロナに明けてコロナに終わった令和二年にもかかわらず、この困難を乗り越えて同協会でも多数の叙勲褒章を受章された先輩の皆様に、先ず心からのお祝いを申し上げますと共に、ご家族共々今後ますますのご健康でご繁栄されますことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私はこの誌面をお借りして私が 50 年以上の永きに亘りお世話になり、ご家族挙げてご支援下さった私の恩人中の恩人と申しても過言ではない、保坂益男氏がこの度、団体の事務方として晴の勲章を賜れたことに対し、私は自分自身も数年前に勲章を賜りましたが、正直に申し上げてそれ以上に私が喜びとする、今回の御慶事を皆様方と共に喜び申し上げます。

保坂氏と私の出会いは、私が 27 才で郷里掛川市議に当選し、直ちに静岡県中小企業団体中央会の理事として抜擢を受けたその時以来、保坂氏も後に全国中小企業団体中央会会長として活躍された、井上光一先生の弟子のように共に指導を受けた頃に始まり、私が参議院議員、衆議院議員と進む内に益々親しくなり、私をご一家で支援して下さることとなりました。

折しも私が参議院大蔵委員長を務めた 43 才の頃、中小企業者である日機協の皆様が使用されている、重機械の税制特例制度が新制度として採択されるか否かの局面があり、保坂常務のご依頼を受け、当時の会長山崎善弘氏と大蔵省内を真夜中の 12 時頃から陳情のご案内をさせて頂いたのですが、幸い難関を突破して今日に至りました。

その時この制度が実施されても、大企業扱いとなる山崎建設はこの恩恵を受けられないことを私は後日知ることになり、山崎会長の偉さをしみじみ思いました。山崎会長がやがて病床に伏せることとなり、保坂常務と二人で東京女子医大病院にお見舞いした時、山崎会長が「保坂君、君は病気をしない限り一生、日機協で働いてくれよ。そして私が果たせなかった夢を果たして欲しい」と保坂氏の手をしっかり握って言われ、それから一週間後に旅立たれました。

山崎会長の胸の中には、当時から運営が全中小企業で困難となってきた厚生年金基金の問題や、外国人研修生の受け入れ問題、協会に加盟しておられる企業に働く皆様が、国の指導と協力を受けながらも単なる労働者でなく、立派な技術者の資格を有する働き手として活躍する制度等々、協会が今日に至るまでの課題の実現を、保坂常務に託したと確信しております。

その結果として、企業年金制度が今まで立派に運営されている、全国でも数少ない団体として、協会加盟員で働く皆様の老後に喜びを与えることとなると確信いたしますし、外国人労働者についても、当協会加入の方々のみが利用される協同組合の設立等もすでに目の前に迫っております。

また、保坂常務理事の作成される議事録は少数意見も必ず記載されており、全国の同種組合のお手本ともなっております。

保坂常務は外見よりも高齢かもしれませんが、まだまだお元気で最前線での活躍が期待されますので、永くご主人のお留守を守って下さる奥様を始めご一家様に心より敬意と感謝の気持ちを申し上げ、更に今後も協会の先頭に立って活躍されることを期待してお祝いの言葉と致します。